

勸善懲惡錦画面解

第四十三號

大坂第二大区九小區

笠屋町五十番地

山崎九八郎の嫁

お君といへる八當

廿一歳まで三休橋

南詰の紋屋の娘

おしりか此山寄

方へ入嫁し七

まご間もなき小

有よや當八月の

三日小親九へ歸りし

何う委細有げなきともいも明き子

其儘出て北の新地を姉方よのき何う話の

真うち不二階上り紅筆にて書置と認め

懐小入て何事もなき歸念なき小姉へ何う氣小

うり下女を付て送れし途途中で下女をなく

是て夜入て堀江瓶橋小至り橋下衣類と

書置と風呂しき小包も置て投身せし

跡へ来りし車夫が拾て見其書置の上

かき小云々の所へ届て早急と有し故へ々せん

思小折しも巡査来りて早速取調お君ともとひま

とも最早死せりと

瓶橋

編輯 藤井克三  
 墨筆 笹木芳龍

出版所

本町四丁目  
 藤井時習舎

勸善懲惡錦画面解43号 文庫10-8072-17

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

